



## 2024年度第4回 「食を通じた地域のプロモーション・交流事業」 栃木県佐野市 FAM ツアーを開催しました

(一財)自治体国際化協会交流支援部経済交流課 プログラム・コーディネーター Sarah Chu

### 事業の概要

クレアでは、食を通じた地域のプロモーション・交流事業（FAM ツアー事業）を実施しています。本事業は、日本の食や文化などに関心を寄せる海外の消費者らを日本各地へ招聘し、FAM ツアーを実施することで、地域の魅力を国内外に発信するとともに、ツアー造成に向け伴走型で支援し、自治体の訪日客誘客につなげることを目的としています。

具体的には、インフルエンサー、オンラインメディア、旅行会社を招聘し、各自治体が企画したツアー行程を巡ってもらいます。ツアー参加者は、日本の食や文化などへの関心が高く、トレンドや情報に敏感で消費意欲の旺盛な人々です。ツアーの様子は各参加者のSNSやオンライン記事などを通して広く発信されます。

### ツアーの様子

2024年度第4回のツアーでは、インフルエンサー、メディア、旅行会社から各1人ずつ招聘し、栃木県佐野市を3泊4日で巡りながら、現地ならではの食文化やアクティビティを体験していただきました。

佐野市は人口約11万人の都市です。東京駅から佐野駅まで東北新幹線とJR両毛線を使えば、約80分で着きます。

栃木県はもちろん、佐野市もイチゴが有名です。まずは、カフェ「ブレーメン」で、新鮮なイチゴ3種を使ったスイーツ作りをしました。参加者3人は作りたいイチゴパフェのイメージトレーニングをしてから、楽しそうにパフェ作りに取り組んでいました。出来上がったパフェは、非常に見映えのする仕上がりでした。

夕食は、市の地域おこし協力隊で今回のFAMツアーの担当者が運営している「グローバルゲストハウス」で魚料理やおでんを味わう交流会に参加しました。今回の参加者のうち2人はインドネシア人のムスリム（イスラ

ム教徒）であったため、インドネシア語が話せる地域の方にも来ていただきました。貴重な経験で、交流会は非常に盛り上がった様子でした。



パフェ作り用の食材

2日目最初は、イチゴ狩りに「佐野観光農園アグリタウン」に行きました。30分以内に3品種のイチゴ、「とちおとめ」「とちあいか」「スカイベリー」を食べることができます。「とちおとめが最も酸味と甘さのバランスがよく、とちあいかが最も甘い。今まで食べたイチゴの中で、一番甘い」と、参加者が楽しそうに話していました。

その後、ムスリムがお祈りすることができる場所、佐野マスジドに寄りました。このマスジドは、ムスリムがお祈りできる場として作られていました。参加者は、お祈りができて良かったと話していました。

2日目の最後は佐野市の名物である佐野ラーメン作り体験でした。ラーメン屋「佐よし」で、伝統の製麺技法「青竹打ち」を体験いただきました。青竹に足をかけ、体重を乗せながら、麺の塊を薄く伸ばしていく工程です。参加者は、貴重な経験で、斬新で思い出に残った体験だったと話していました。



佐野ラーメンを作るデモンストレーション

3日目は、午前中に紙すき体験、箸とプレート作り体験、蕎麦打ち体験、そしてピザ作り体験と体験満載の日だったようです。色々体験しましたが、特に「紙すき体験」ができて良かったと、参加者が語っていました。先生の指導の下、原料から紙を作る工程を学びました。

また、その日の昼ご飯は、参加者が自作した紙を敷き、箸とプレートを使い、お蕎麦とピザを食べていただきました。佐野市の良さを伝える、非常に有意義な時間になりました。

午後は安藤勇寿「少年の日」美術館での作品鑑賞と塗り絵体験でした。画家本人から指導を受け、塗り絵をする機会はなかなかないので、とても有意義な時間でした。

夕方になり、隣接している足利市の、「イルミネーションアワード」にて7年連続でイルミネーション部門全国の1位を獲得し続けた「あしかがフラワーパーク」へ移動しました。10万㎡の園内に500万球を超えるイルミネーションを見に行きました。

夕食は、まるで博物館のように歴史が溢れているホテル「一乃館」で堪能してもらいました。懐石料理で、焼



紙すき、箸・プレート作り、蕎麦打ち、そしてピザ作り体験後のご馳走

き魚、佐野市の名物である「いもフライ」、お鍋など、一つ一つ美しい盛付けで出てきました。参加者は満喫した様子でした。

ツアー最終日4日目は、1985年に環境省の名水百選に選定された「出流原弁天池」での散策から始まりました。池の水が透き通っており、池の中に泳いでいる鯉が綺麗に見えます。

その後、佐野市の大きい道の駅、「道の駅どまんなかたぬま」でおみやげなどを買った後、佐野市街を散策していただきました。みそ饅頭、黒からあげ、いもフライを味わっていただくことができました。その後は、佐野市観光物産会館、佐野厄除け大師まで足をのばしていただきました。

そして本ツアーの最後には、ムスリム対応を行っている「Coena Cafe」で豚肉、お酒を含まない、肉や野菜にこだわったワンプレートランチを試していただきました。店主によると、事前に予約すれば、ムスリムフレンドリーな食事を準備することができるということです。

参加者からは、「このFAMツアーに参加してよかった」「他のツアーになかなかない、紙すきのような珍しい体験までできて、本当に有意義な時間でした。ありがとうございます」と、感謝の気持ちを表すコメントをいただきました。



地域の人々とのグループ写真

## 終わりに

日本には魅力的な観光資源や食文化があふれています。そうした魅力をより海外へ発信していくことが、今後のインバウンド（訪日客）拡大に向けた重要な要素であり、FAMツアーは1つの効果的な手段と考えられます。

引き続きクリアでは自治体の海外販路開拓やインバウンド促進を後押ししていきます。